

放送局やクリエイターに音楽カタログを提供する英・オーディオネットワーク社は、今年7月に創立20周年を迎えた。日本国内では、コンテンツ向け音楽制作業界でキャリアを積んできた後藤信之氏が、ミュージックコンサルタントとして選曲をサポートするなど、事業拡張に向け活動している。

同社は2001年7月、イギリスのメープルステッドにある農場で、2枚のオリジナルアルバムとともに発足した。当時、高品質な音楽のライセンスを入手するには複雑な法的手続きが必要だったが、同社は、番組制作者が簡単に音楽にアクセスでき、同時に作曲家も作品を提供しやすい環境を目指していた。

この構造が市場で評価

オーディオネットワークが創立20周年 放送局や番組に高品質な音楽を提供 日本での事業も拡張

され、同社は現在、170人以上のスタッフにより世界の15の主要都市でオフィスを構えている。音源は述べ20万曲超、世界で1000人以上のアーティストと契約するなど音楽出版社として成長を続けている。

放送では米国と欧州、オーストラリア、日本の計303の人気チャンネルで利用される。

世界では175の放送局が同社音楽のシンクロ権（映像に音楽を同期させて使用する）を購入している。特定地域で販売するサブパブリッシャーを含めると200社にのぼるといふ。

昨年20年9月には、同社が制作したアルバム



後藤氏



横井氏

社であるオーディオネットワークジャパンのミュージックコンサルタントである後藤氏が、顧客の選曲サポートなどの問い合わせ窓口を担当する。ロンドン、ニューヨーク、LA支社と連携した24時間対応となる。日本の営業部長を務める横井祐子氏は、ロンドン本社から事業を支援する。横井氏は「将来的には、日本でのビジネス拡大に伴い東京支社のチーム拡大も視野に入れて体制を整えている」と説明する。

「Falle y Queada」（同社契約作曲家ヘレンニスト・アスタボ Casenave）が、ラテン音楽のグラミー賞「ラテン・グラミーアワード」で「ベストタンゴアルバム」を受賞するなど、音楽の品質の高さにも定評がある。日本国内では、東京支社パブリッシャーともパートナーを追加。韓国の子会社には中国語のページを追加。韓国のサブパブリッシャーともパートナー契約している。すべての人の平等を目指す世界的な動き「ダイバーシティ&インクルージョン」にも力を入れており、定期的なワークショップやスピーチを開催。スウェーデンの音楽制作会社「スウェーデン・ミュージック・インテリジェンス」の代表取締役と、日本の音楽制作会社「サウンド・エッセンス」の代表取締役と、それぞれ提携している。